

登録コード	J5310300	開講年度	2026				
授業科目	行動・実験経済学				担当教員	下平 勇太	
英文授業名	Behavioral and Experimental Economics				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：3年
講義室	経法401演習室		授業区分	演習	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	経法20加						
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。				⇔	専門知識を応用・実践する力として、わかりやすく伝える能力や現実の人間行動について実証的に検討する能力を身につける。	
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済，経法20加・応用経済						
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				⇔	専門知識を応用・実践する力として，わかりやすく伝える能力や現実の人間行動について実証的に検討する能力を身につける。	
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済						
	環境問題，少子高齢化，自然・経済リスクの管理，コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて，現実に関連領域との協力が必要となる。このために，関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し，経済学の知見を，柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。				⇔	関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析方法との相違を把握し，経済学の知識を，柔軟にまた建設的に応用できる能力として，モデル分析と実証分析を実行する能力を習得する。	
	経法20加・応用経済						
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				⇔	関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析方法との相違を把握し，経済学の知識を，柔軟にまた建設的に応用できる能力として，モデル分析と実証分析を実行する能力を習得する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム	ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	行動経済学は，伝統的な経済学に心理学の知見を取り入れて人間行動を理論的に解明する分野である。一方で実験経済学は「実験」を用いて個人の意思決定や集団内の相互作用を実証的に分析する分野である。 本授業では，行動経済学と実験経済学を行き来しながら学習する。まず受講者は経済実験に参加し，意思決定問題や戦略的狀況を体験する。その後，伝統的な経済理論および行動経済学の知見を学習する。さらに，実施した実験のデータ可視化や統計分析の手法を学習し，受講者は実験結果を報告するレポート作成に取り組む。						
(5)授業計画	第1回 イントロダクション：行動経済学，実験経済学の目的を理解する。今後の授業内で行う経済実験，および実験データの可視化，統計的分析作業のためにコンピュータの準備を行う。 第2回 市場均衡と余剰の分析：市場取引を再現するダブル・オークション実験に参加する（実験1）。この実験を通して，市場均衡，余剰の概念を理解する。 第3回 比較優位と交易の利益：財の生産と取引に関する実験に参加する（実験2）。この実験を通して，機会費用，比較優位，生産可能性フロンティアなどの概念を理解する。 第4回 不確実性下の意思決定とリスク選好：期待効用理論，リスク選好，リスク回避の概念を理解する。リスク選好測定実験に参加し，自身のリスク回避度を知る（実験3）。 第5回 プロスペクト理論：行動経済学の主要な知見の一つであるプロスペクト理論（確率加重関数，損失回避バイアス）を理解する。 第6回 異時点間意思決定と時間選好：時間選好，割引効用の概念，時間選好に関わるアノマリー（異常な行動）を理解する。時間選好測定実験に参加し，自身の時間割引率を知る（実験4）。 第7回 双曲割引と自滅的選択：行動経済学の主要な知見の一つである双曲割引，現在バイアスの概念を理解する。さらに，双曲割引がもたらす自滅的選択（自制問題）および双曲割引の発生メカニズムを理解する。自制問題への対処方法について議論する。 第8回 社会的ジレンマと協力行動：囚人のジレンマゲーム，公共財ゲーム実験に参加する（実験5）。この実験を通して，ゲーム理論における戦略的狀況，支配戦略均衡，社会的ジレンマの概念を理解する。 第9回 協調行動：スタグハントゲーム，最小努力ゲームなどの協調ゲームに関する実験に参加する（実験6）。この実験を通して，ナッシュ均衡，均衡選択の概念を理解する。 第10回 最後通牒ゲームと社会的選好：最後通牒ゲームおよび独裁者ゲーム実験に参加する（実験7）。この実験を通して，部分ゲーム完全均衡，社会的選好（利他性選好）の概念を理解する。 第11回 社会的選好と協力行動：不平等回避選好をはじめとする社会的選好に関する諸概念を理解する。協力行動，向社会的行動を促すメカニズムについて議論する。 第12回 メカニズムデザイン：オークション実験に参加する（実験8）。この実験を通して，メカニズムデザイン，耐戦略性の概念，オークション理論の概要を理解する。 第13回 限定合理性：美人投票ゲーム実験に参加する（実験9）。この実験を通して，戦略的不確実性，限定合理性，レベルk理論の概念を理解する。 第14回 ヒューリスティクス：行動経済学，心理学がこれまで蓄積してきた様々なヒューリスティクス（						

(5)授業計画	思考のクセ)に関する知見を理解する。 第15回 ナッジ: これまでの授業で学んだ行動経済学, 実験経済学の知見を整理する. そのうえで, それらの知見を活用して行動変容を促すナッジについて学ぶ. (授業アンケート実施) 期末試験は実施しない.
(6)成績評価の方法	授業中に行う経済実験の結果を報告する小レポート課題(全9回, 60%)と, 行動経済学の知見を解説する期末レポート課題(全1回, 40%)によって評価する.
(7)成績評価の基準	扱っているテーマを理解していれば「合格水準にある」. その上で, (i) 問いから結論まで筋道を立てた説明, (ii) 適切な手法によるデータの可視化, 分析, (iii) 経済学を学習していない読者でも理解できるような説明, のすべてができている場合には「卓越している」と評価される. (i) から (iii) のうち2項目ができていれば「かなり上にある」, 1項目ができていれば「やや上にある」と評価される.
(8)事前事後学習の内容	・事前学習(毎授業前2時間) 授業の内容を理解するために, ミクロ経済学(価格理論), ゲーム理論の指定されたトピックを復習する. ・事後学習(毎授業後2時間) 授業の内容を振り返りながら, レポート課題に取り組む.
(9)履修上の注意	「ミクロ経済学I」, 「統計学I」, 「ゲーム理論入門」を履修済みであることが望ましい.
(10)質問, 相談への対応	授業中, 授業後, およびオフィスアワー(初回授業にて指示)にて対応する.
【教科書】	資料を配布する.
【参考書】	・黒川博文(2024). 分析者のための行動経済学入門, ソシム. ・筒井義郎, ほか(2017). 行動経済学入門, 東洋経済新報社. ・亀井憲樹(2024). はじめての実験経済学, オーム社. ・花木伸行, 島田夏美(2023). 実験から始める経済学の第一歩, 有斐閣.